

---

## 防災を考えるー日本語教育の現場でできること

---

宮城徹、花蘭悟、中井陽子、鈴木美加  
東京外国語大学留学生日本語教育センター (JLC-TUFS)

留学生は、地震についてどのような知識を持ち、どのように対応したらよいのでしょうか。また留学生教育に携わる私たちは、どのように彼らの学びを促したらよいのでしょうか。こうしたことは、留学生や私たちが、どのような状況で、どのくらいの規模の地震を経験するかといった不確定要素が大きく、万全の備えということは考えにくいのが現実です。

そうした現状を踏まえつつ、発表者らは、「留学生と共に学ぶ防災」活動を進めてきています。ここでは、その活動を紹介しながら、協働学習の意義、「やさしい日本語」の活用、「自助、共助、公助」の重要性などを念頭に、参加者一人一人の職場で、どのような防災学習が可能なのかについて、ワークショップ形式で検討していきたいと考えています。

当日の流れとしては、以下のような予定です。

### I. JLC-TUFS での事例紹介

- ・防災マニュアルの作成
- ・日本語クラスでの防災授業
- ・防災ビデオ作成
- ・問題発見型の避難訓練

### II. グループ作業

Iを参考にして、ご自身がさらに具体的に考えていきたいトピックを選択し、同じトピックを選択した者同士の小グループに分かれます。そして、ご自身の所属機関での制約や特徴を織り込みながら、より具体的な防災学習の活動プランを考えていきます。最後にグループの成果を全体で共有します。

### III. 総評

全体を通じ、見えてきた更なる問題点や方向性について確認します。

### 参考文献

- 宮城徹・花蘭悟・中井陽子・ハリソン、リチャード・土屋順一（2012）パネルセッション「留学生と日本人学生の協働による「学び」」『東京外国語大学留学生日本語教育センター統合20周年記念国際シンポジウム予稿集』pp. 53-63 東京外国語大学留学生日本語教育センター
- 宮城徹・花蘭悟・中井陽子（2012）「留学生に対する防災教育のあり方を考えるー東京外国語大学での実践事例からー」『第17回JAISE研究大会プログラム・要旨集』pp. 40-44 留学生教育学会